



同友しずおか

題字：塩崎敬子氏 三島支部



静岡県中小企業家同友会1000名達成記念祝賀会

講演 広浜 泰久氏(株)ヒロハマ 会長・中小企業家同友会全国協議会幹事長)

2016年3月30日(水) ホテルアソシア静岡



私の逸品

皆の力で、新たな仲間を“プラス1”

1000名達成記念祝賀会

詳細はWEBで!

[静岡同友会](#)

[検索](#)

1000名会員達成記念祝賀会

特集

1000名を突破！更なる発展に向けての出発式

震災復興シンポジウム

震災から5年 教訓を100年後の未来にむけて

会員訪問記

殿岡 啓行氏 殿岡服飾工業(株)・沼津支部
木村 健一氏 (株)木村スチロール・榛原支部

シリーズ

経営指針 ～激動の時代の羅針盤～ 望月 宣典氏 清水クレジット(株)・静岡支部

その他
主な内容

支部だより、新入会員・名義変更紹介、友達の輪、イントロin榛原

平成27年度 重点課題

- ① 経営指針を成文化し、社員との共有・実践で、時代に対応する強靱な企業づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章推進の運動を広げ、中小企業振興基本条例制定をめざします。
- ③ 元気な企業と地域をつくるため、会員増強目標1200名を早期に達成します。

発行所：静岡県中小企業家同友会 doyu@szdoyu.gr.jp / 編集者：県広報情報化委員会

〒420-0857 静岡市葵区御幸町8 静岡三菱ビル6階 TEL：054-253-6130(代表) FAX：054-255-7620 <http://www.szdoyu.gr.jp>

1000名会員達成記念祝賀会

1000名を突破！ 更なる発展に向けての出発式

静岡同友会は、2015年度をもって1017名会員に到達しました。3月30日には1000名達成を記念し、ホテルアソシア静岡にて来賓含め総勢95名で、祝賀会を開催しました。

静岡同友会では組織拡大委員会「SHIZUOKAプラス1」（委員長：海野 敦氏（海野サッシ商会・静岡支部））を中心に、「SHIZUOKAプラス1」のメンバーが地道に1名ずつ増やす（プラス1）運動の中心となり、1000名会員達成を絶対にやり遂げよう！との決意のもと、精力的に仲間づくりの取り組みを展開し、2016年3月末時点で1017名会員を達成しました。

祝賀会では冒頭、知久正博代表理事（有知久太田会計事務所・榛原支部）が挨拶のなかで「1000名会員は通過点。この祝賀会は、同時に新たな発展に向けての出発式でもある」と述べました。続いて、中同協幹事長の広浜泰久氏（株）ヒロハマ会長）が記念講演。経営指針や労使見解をはじめとする同友会での様々な学びを自社の計画にまで落とし込んで実践することによる「強靱な企業づくり」、自社の健全経営による発展と地域の発展



広浜氏による
記念講演

を不離一体のものとして捉える経営者を輩出する「地域づくり」、これら2つの同友会の使命を再確認するとともに、このような考えを持つ経営者を地域に増やし続けていくという「組織増強の意義」についても触れ、お話し頂きました。その後は、会員増強に大きく貢献した皆さんを表彰、静岡同友会42年の歴史をスライドショーで振り返った後、新旧を問わず会員の皆さんが語り合い、交流しました。学び合いの上でもビジネスの上でも良き仲間巡りに合う会員の姿が、会場の至る所で見られました。井上斉副代表理事（ワシロック工業(株)・静岡支部）は閉会の辞で「この会員拡大は実を伴った強固な会員拡大であり、これから更なる発展に向けて皆で頑張りたい」と述べ、参加者一同で共に学び合う仲間を更に増やすことを確認し、幕を閉じました。



最後は全員で万歳三唱！

<組織拡大委員会 正副委員長コメント>



左から、齋藤 寧氏、海野 敦氏、
三輪 雅則氏

会員皆様のご協力のおかげで、今期中に会員1000名を達成することが出来ました。誠にありがとうございました。昨年度までの県、支部の地道な会員拡大運動

が開花した瞬間と思います。特に、佐藤真己氏（佐藤燃料(株)・静岡支部）のリーダーシップから波及した静岡支部の著しい増強、創る会の皆さんの協力からの増強、県役員のさすがの駆け込み増強、この機運をそのままに、地道に1名ずつ増やし（プラス1）、県下全域を巻き込んでの県組織拡大委員会になるよう、会員増強を牽引していきたいと思っています。これからもご協力、どうぞ宜しくお願い致します。早期1200名達成に向けて同友会の良い点を伝え、会員をどんどん増やしましょう。

海野 敦氏（海野サッシ商会・組織拡大委員長）

私が同友会で学んだ事のひとつに「社長は大きい夢を抱き、その夢を吐く事が大切」という教えがあります。1000名達成が私の夢という訳ではありませんが、高く険しい目標を持つ事はとても大事だと日頃から思っていたので、目標達成のために私自身ができる事を始めました。祝賀会実行委員長に指名されてからは「達成できなかったらどうしよう」から「達成する！」の思いに変わり、増強への行動も更に積極的になりました。これも高い目標にむかうプラス1の仲間が存在が大きかったと、仲間感謝しています。

齋藤 寧氏（株）齊藤組・組織拡大副委員長）

同友会歴3年にも満たない私には、1000名という数字の意義が正直わかりませんでした。しかし、式典で静岡同友会の42年の歴史を振り返り、諸先輩方とお話をするうちに、大きな達成感で、とても幸せな気分になりました。会員が増えることは、「豊かな地域づくりをすること」であり「1000名達成は、更に良くなる出発点である」と考え、これからは仲間づくりを積極的に行っていきたいと思っています。

三輪 雅則氏（株）マルイチ・組織拡大副委員長）

第4回東日本震災復興シンポジウム

東日本大震災から5年 教訓を100年後の未来に向けて

3月10～11日に第4回東日本大震災復興シンポジウムが福島・宮城で開催され、全国から162名、静岡同友会からは7名の会員が参加しました。

10日には福島県いわき市に集合し、福島同友会会員の生々しい話を聞きながら貸切バスで国道6号線を北上。帰還困難区域に入ると、原発事故の被害の状況や、五感では知覚し得ない放射能の恐ろしさを感じました。各々が原発事故の現実を目と心に焼き付けた後、宮城県仙台市へ。11日のシンポジウムでは、増田聡氏（東北大学院経済学研究科教授）より「震災復興政策の検証と新産業創出への提言」をテーマとした基調講演、被災3県からの実践報告などの後、グループ討論で学び合いました。

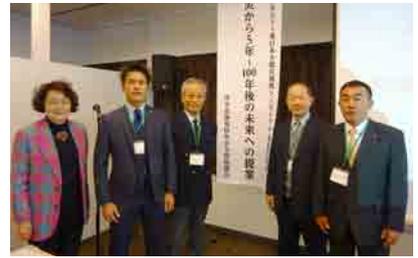
2日間のシンポジウムでは、「強い絆のもと、われら断じて滅びず」という中小企業家の魂、



感想を述べる小松 善雄氏

「1社もつぶさない、つぶさせない」という中小企業家の絆、「地域に人を育て、地域に人を残す」という中小企業家の使命を再確認しました。また、この震災からの教訓について、1. 会員企

業一社一社が労使見解に基づく経営指針の実践による「同友会型企業づくり」で地域の再生・



復興の希望となっていくこと。2. 今こそ中小企業憲章の精神を地域の中に伝え、広げていくこと。地域に新しい仕事をつくり出し、雇用を生み出す地域循環型経済にとりくむことで復興の光となっていくこと。3. エネルギーシフトの学習と実践。再生可能エネルギーによる地消地産をめざすことで、中小企業の仕事と雇用を生み出し、持続可能で質の高い暮らしと仕事を総合的に地域全体で実現していくこと。4. 自然災害への対応・対策を企業・地域・同友会の中で進めていくこと。企業においては事業継続計画、各地域においては環境適応計画の策定が急務。5. 同友会で学ぶ仲間を地域に増やしていくこと。被災地では同友会の大きさと強さが地域の再生と活性化につながったという教訓に確信を持ち、同友会運動を地域の隅々に広げていくこと。以上の5点を各地に持ち帰り、後世に伝えていく事を誓い合いました。

参加者報告

あれから5年…。私は今回初めて東北の被災地を訪れました。ここ何年かの私は日々の生活に流され東北の復興の現状についてほとんど何も知らずとせず、どこか他人任せで無関心だったように思います。震災当時は会社の業績が悪く、自社を守る事しか考えられず、少ない義捐金を出す事位しか出来ませんでした。ただずっと心の中で「このまま何もしなくてもいいのか？」と自問自答していた事も事実です。そんな気持ちで参加した今回の復興シンポジウム、1日目のいわき駅からバスで仙台まで海岸線を通過途中での様々な経験は、私の想像を絶するものでした。東京電力の福島原発の廃炉に向けての取り組みはまだ始まったばかりである事実、未だ立入制限区域で、あの日から全く時が止まったままだった浪江町の今の状態、他にも実際に、この目で見て、話を聞いて、肌で

感じて、今の被災地の厳しい現実に愕然としました。しかし、そのような絶望的な中でも決してあきらめず、率先して町の復興の先頭に立ったのが我々同友会の仲間だったのです。2日目のシンポジウムでその事をお聞きした時は、心からの尊敬の念と、同じ同友会会員としての誇りを感じ、胸が熱くなりました。

今回参加して一番強く感じた事は、「被災地の復興にはまだまだ時間がかかる」という現実を同友会会員一人ひとりが決して忘れず風化させてはいけない、という事です。そして、ここ静岡でもいつこのような震災が起こってもおかしくないという現実について、もう一度考えなければと強く感じました。

宮本 浩氏（大栄工業㈱・志太支部）

支部だより

静岡例会

皆でおこなった“知り合い・ 学び合う素地”づくり

3月8日(火) ベガサート 参加70名



「新入会員さん、いらっしゃい！」と題して、自己紹介や自己PRをしてもらい、お互いを知る場を設けました。平成27年度において新たに入会した29名の内、17名の会員が出席し、一人ひとりが事業内容や自社の強み、あまり人が知らないような秘密の話や自らのこだわり、趣味等を披露しました。時間配分の都合で、一人あたり約2分という短い発表時間を設定しました。これでは十分な発表ができないことを危惧しましたが、みなさん実に場慣れしていて、堂々とした話し振りで、最初の心配は杞憂に終わりました。「今では髪の毛が短いですが、昔は長髪でロックバンドをやっていました」とか「モーグルの選手をやっていました」とか「カラオケ教室の講師でした」などと意外な一面や背景が噴出し、人は見かけによらないということを実感しました。このあと、各テーブルに新入会員1～2名を配置し、既存会員から「同友会で学べること、学んだこと」「同友会に入ってよかったこと」などを披露したり、新入会員からの同友会に対する質疑に応答したりしました。今回の例会で、深く知り合い、共に学び合うことができるきっかけができた実感しています。

山村 直樹氏 (山村社会保険労務士事務所・静岡支部)

榛原例会

家族の絆が日本の経済を支えている

3月17日(木) さざんか 参加80名

「経営者にとって家族の存在とは？」と題した、伊藤崇洋氏 (株オブジィ) による「我が経営を語る」。脱サラから起業し、法人化、更なる飛躍をと邁進する矢先に起こった、会社の存続に関わる大きなトラブル。事業の断念を真剣に考え、追い詰

められた時、作成した経営理念の真の意義に初めて気付きました。奥さまに現在の会社の状況を伝え、今まで一切頼りにすることの無かったご両親へ相談をする等「事業を続けたい」その



伊藤 崇洋氏

一心で家族への協力をお願いし、経営危機を脱する事ができました。この時の経験が、かつて伊藤氏が持ち続けていた「家族／同族経営の不透明感」よりも「事業や経営の最大の理解者／協力者である」という認識に変わっていきました。今回の報告にあたり、家族が経営参画している会員企業へ訪問しご家族にお話を伺い、どの企業のご家族も社長を支え、会社の経営を我が事のように捉え自身の生活の一部として会社と共に歩んでいる様子も報告してくれました。バズセッションでは、支部会員の経営における家族の存在について討論しました。家族が経営参加を問わず支えてくれていることを認識して、感謝の念をもって改めて中小企業経営者の中にある家族の存在について深く理解した例会となりました。

中川 泰典氏 (遠州工機(株)・榛原支部)

沼津・三島合同例会

すべての始まり “Why” のチカラ

3月16日(水) 沼津商工会議所 参加78名

沼津・三島合同による今年度最後の例会、報告者はJames Molloy氏 (エルスリー(株)・三島支部)。カナダのニューファンドランド出身で、大学卒業まで何不自由の無い“コンフォートゾーン”に身をおいていた



James Molloy氏

Molloy氏。この状況に対し湧き起こった「つまらない」「このままで良いのか」という内なる声に、言葉の通じない、文化の異なる異国をトラベルしたい(報告の中では“ストレッチゾーン”と表現)と思い、来日した。日本で経験を積む中、自分はコミュニケーションが好きだと気づき、それが現在経営するエルスリー(株)のコンセプト「コミュニケーションデザイン」に繋がっているそうです。また、全ての物事の考え方として、一番中心に“WHY (理由)”、その外側に“HOW (手法)”、そしてさらにその外側に“WHAT (している事)”を

描くとのこと。理由や目的を最初に考えることで、やり方を最適化して結果に結びつける考え方です。

バズセッションのテーマは「あなたがいまチャレンジしているストレッチゾーンは何ですか？そしてそれは何の為ですか？」。全12グループに分かれて行い、グループ長中心に熱い討論を繰り広げました。時間の制約上、全部のグループ発表は出来なかったのですが、三島支部会員との交流もあり、大変有意義のものとなりました。

羽野 佳明氏（丸は羽野水産(株)・沼津支部）

富士例会

先輩経営者に学んだ苦闘の歴史

3月17日(木) ロゼシアター 参加39名



佐野 讓二氏

報告者は、同友会歴40年、社長歴30年の佐野讓二氏（株和泉運送）。「経営は勘と度胸とそろばん勘定」と題した報告は、普段の佐野氏から受ける温和な印象とは程遠い、1975年に常務として入社後の10年にわたる

苦闘、労働問題で苦しんだことから始まりました。この労働問題とは、組合との交渉事。今でも大企業では「春闘」と耳に致しますが、1970年代には交渉決裂「ストライキ」という懐かしい言葉と映像が私のなかで浮かびました。組合=大企業のイメージから、中小企業には資源が少なく、また売上も不安定要素がある中で、経営者側（佐野氏）と組合との交渉とはまさに「苦闘」という言葉だと思い受けました。その中で佐野氏が組合に1年間ずっと言い続けてきたことの結果に起点を感じました。そして「中小企業における労使見解」からの学び、労働者、使用者の信頼関係の構築に繋がっていくもの、さらには会社を維持し発展させる経営者の責任を語っていただきました。先輩経営者の報告、経営談は私にとっては宝であり、経営人生をもっと深く広く聞きたいので、第2章を是非お願いしたいです。

渡辺 直俊氏（フジゲン(株)大野新田工場・富士支部）

伊東例会

全てはチャレンジから始まる

3月16日(水) 伊東市生涯学習センター 参加9名

2015年11月に入会した飯田達也氏（有飯田店）による「我が経営を語る」例会でした。



飯田 達也氏

地元市域の人口減少、大手スーパー参入による地域商店の廃業、老舗旅館の倒産等、地域密着で商売をしていた飯田店の苦労の話から始まりました。旅館に至っては、36軒あった旅館が19軒に減少。少子高齢化

に伴う若者の地元離れやお米屋さんの廃業等、経営を取り巻く時代や外部環境は常に変化するという、我々経営者が共感できるメッセージを送ってくれました。今為すべきことは何なのか、事実を見る目が大事なのだと思います。飯田氏は、これらの逆境に打ち勝つため、地元特産品のニューサマーオレンジを活用し、地元ならではの商品を開発しようと試行錯誤。その結果、新商品「ニューサマーサイダー（炭酸飲料）」の開発に成功、販路を拡大する事で販売本数を増加、地元商品に浸透させるためマスメディアを活用するなど、飯田氏は何事にもチャレンジし活路を見出してきました。その姿勢に、守る経営ではなく、時代の流れを感じ何事にも挑戦していく攻めの姿勢が大切だと感じました。また、何かに固執せず柔軟な考えを持って行動を起こす飯田氏を、これからも応援したいと思いました。

渡邊 啓太氏（ハッピーライフ・伊東支部）

志太例会

本気になれば全てが変わる！

3月17日(木) 藤枝市文化センター 参加24名

長崎出身のトライアスロンを愛するアスリート社長、宮本浩氏（大栄工業(株)）による報告でした。支部発足30周年記念行事を副支部長として支えた氏は、“31年目の新たな一歩”として、次年度は支部内で更なるリーダーシップを発揮していくと共に、社長としても大きく成長するチャンスと銘打って、熱く語りました。



宮本 浩氏

宮本氏は、夫人の実父が経営をしていた大栄工業(株)の代表取締役役に就任すると同時に、同友会に入会。その後の会社存続の危機、自身の事故など、代表取締役役に就任してからの10年がわかる自作の年表を用いながら、赤裸々に語りました。「大き

な問題が立ちだかったとき、そこには常に同友会と共にあった」と氏は語ります。社長として、同友会の会員として、自社経営と同友会運動を不離一体とした活動が、氏にとって大きな気づきを得られる場所となった、とのこと。後半は、「同友会で何を学び、自社・自分のどこをどう変えていくのか」というテーマでバズセッションを行いました。

さまざまな経営者のそれぞれの資質を感じ、学びあう同友会として、地域になくてはならない志太支部であるよう、会員相互が刺激と成長をかさねていく必要があると感じました。

山田 幹也氏 (立花ガーデン(株)・志太支部)

浜松例会

「良い経営者」とは何か？ 会歴に関わらず議論！

3月16日(水) (株)エーグッド会議室 参加11名

「新入会員さんを囲んで語り合おう」と題し、今年度新たに加わった7名を中心に、前半は自己紹介も兼ねながら事業概要や自社の強みを語り合いました。各会員さんが改めて自己や自社について語ったことで、日頃は知ることがなかった出来事などを共有でき、一層同友会としての親近感が沸きました。また、同友会への入会動機は様々で



すが、各々で直面した問題を解決できたり、素晴らしい経験ができたりと「入会してよかった」という声が多く聞かれました。

後半のバズセッションでは、同友会の3つの目的にもなっている「良い経営者」とは何か、というテーマで意見を交わしました。“社員・顧客・株主などの幸せを實踐できる”“人脈と人格を形成できる”“高いモチベーション、信念や志、先見性・変化への対応力と利益を生み出せる力を持っている”など具体的な意見がたくさん出されました。「良い経営者」について様々な意見が出されるのは、人の価値観が多様である証拠であり、それを限定するのではなく各々の個性を尊重できるからこそ良いのでは、という意見も出されました。互いの多様な価値観を認め合いながら「良い経営者」を目指し、皆で学び合っていきたいと思います。

杉山 尚也氏 (株)ハーモニー・浜松支部)



運載～激動の時代の羅針盤～ 経営指針

第58回
(最終回)

私が同友会、創る会に同時人会させて頂いた2009年は、私自身も会社も本当にひどい状態でした。会社は8年連続貸付残が減少し、売上(利息収入)はピークの四分の一になり、5年連続赤字。当然社長はこのような状況の中、何をしたいのかわからない盲動の状況でした。

創る会で先輩から「こんな状況でも明るく、働いている社員の皆さんがいるじゃないか！」と指摘され、自分は一人ではない、と社員さんたちに本当に感謝しました。特に、いわゆるマチ金融という世間から蔑まれる仕事でありながらついてきてくれる社員さんたちに、誇りを持って「我々業界に対するイメージを打ち破り」働いてもらえるように、この文言を経営理念に入れ、一緒に経営指針を創ることを始めました。

社内全員が理念を共有し、理念に基づき行動を続けると、不思議なことに、弁護士や裁判所の我が社に対する対応が変わってきました。更に、事業定義を「家庭と企業の応援・相談業」と定め、理念と事業定義を軸に行動することで、お客様も以前にも増して、親密にお付き合いしていただけるようになってきました。

そして、理念に基づく経営方針、経営計画を立てました。8年連続の貸付の減少は、事業領域が間違っていたからでした。個人中心の営業から、事業主中心の事業に転換したところ、貸付が増え、計画通り3年目に黒字化を達成しました。

創る会で先輩から、「社長は常に明るく、絶対に諦めてはいけない」ことを学びました。現在は創る会会長として、スタッフ・受講生が仲間の会社のことを自社の問題として考える「場」をつくり、指針をつくり、実践する仲間をさらに増やして続けて行きたいと思っています。

経営指針を創る会第6期卒業生
望月 宣典氏 (清水クレジット(株)・静岡支部)

“幸せ創造企業”を目指す服飾製品・刺繍の老舗

殿岡服飾工業(株)

代表取締役社長 殿岡 啓行氏 (沼津支部)

事業内容：服飾雑貨製造販売（刺繍全般（名入、オリジナルワッペン）タオル・ハンカチーフ製造販売、イベント用品の企画販売）

創業：1946年4月

社員数：正規2名 工場パート15名/自宅パート50名

入会：2013年10月

所在地：沼津市原271-1

TEL：055-966-5171

独自技法を核に、時代の荒波を乗り越える

殿岡服飾工業(株)は、昭和21年に母である殿岡けい氏が花カットワーク技法・スカラーハンカチーフを開発し、以後70年間、服飾製品・刺繍の生産販売を続けています。「こだわりマスター」が50種類以上の特殊技能で、20以上のナショナルブランド・夢ふくらむオリジナル製品・イベント用品・記念品など、1枚から企画提案をしています。沼津市原地区はかつて縫製業で栄えた地区でしたが、現在は殿岡服飾工業のみ。同社が時代の変化に的確に対応してきた結果でしょう。

支部で指針を学び、

2013年に、河合浩史氏（板橋工機(株)・沼津支部）の紹介で入会。その後、沼津支部経営指針を創る会をはじめ各種活動に参加。そこでの多くの人との出会いを

通じ、ものの見方や考え方を学び、会社経営に生かしています。多くの従業員が働いているので苦労もありますが、指針の会で得た多くの学び、そして自社の経営理念「従業員の物心両面の幸福を追求・同時に伝統の地場産業とし社会に貢献する」「感動を創造し、感動を伝える」を軸に、自分自身の成長を強く考え「前進あるのみ」の精神力で突き進みます。



殿岡啓行氏（左）、奥様

今後の展望

1人ひとりのお客様に対応したオリジナル製品を、奥様のきめ細かい目配りと社長の豊富なアイデアで、他社には真似できない個性豊かで温かみのある製品に作り上げていく、殿岡服飾工業(株)。今後の展開について殿岡氏は「工業製品の地産地消・顔の見えるもの作りをテーマに、ナショナルブランド製品の受注製造と並行して自社ブランドを立ちあげ、直接販売を強化していきたい。また、お客様にとって感動と価値のある製品を提案できる“しあわせ創造企業”として、地場産業の継承と地域のふれあいを大切にしたいもの作りを『チーム殿岡』として挑戦し続けたい。加えて、企業展示品であるテーブルクロスや幟、記念式典用名入れハンカチなど新事業にも着手していく」と語ってくれました。

取材・記事：片野 浩一氏（宍弥生製作所・沼津支部）

「手作業」に特化して目指すオンリーワン！

(株)木村スチロール

取締役専務 木村 健一氏（榛原支部）

事業内容：硬質発泡スチロール成型・加工（人形ボディ、ルアー、ハト(装飾用)）

創業：1975年9月

社員数：正規5名 パート3名

入会：2016年1月

所在地：牧之原市大沢1616-8

TEL：0548-52-1372

父と子、それぞれの“思い”

木村昭吉代表取締役社長と、会員の木村健一専務取締役を取材しました。社長は若い頃から起業の思いが強く、1975年9月に独立を果たします。個人事業としてスチロール成形事業を開業、1997年に株式会社へと移行。「手作業だからできるオンリーワン」を目指し、仕事に打ち込んできました。専務の健一氏は父の頑張る姿を見て「俺が継いでいく」と決意し、当時の会社を退職。2015年に木村スチロールの社員として働き始めました。

コミュニケーションを軸とした社内環境づくり

社長は、「1人前になるまで10年」という言葉通り、「高品質なモノづくり」にこだわり、社員に伝えてい

ます。加えて、コミュニケーションを密に取る事、作業1つ1つの“意味”を納得いくまで説明することで、より良い社内環境を作り出しています。「創業以来、社内で大きなトラブルがなかった」というお話も、そのような思いがあればこそ、なのではないでしょうか。



左から河内崇文氏、木村昭吉氏、木村健一氏、遠藤在氏

特化することで見えてきたモノ

現在、事業の50%が人形などの素体成形で、その種類はひな人形や西洋人形、冠婚葬祭用の人形など多岐にわたります。近年は、釣具の「ルアー」の製造に力を入れていきます。作業工程が自動化していく時代において、あえて「手作業」に特化してきました。その技術でしか実現できない製品です。多くの釣具メーカーと取引する中、今後は販売店向けに「自作を楽しめるルアー」のPRや、海外トーナメントへの出展などに事業を拡大させていくそうです。今や国内メーカーの取引だけに留まらず、世界市場を視野に入れた事業展開。静かながら夢があり、熱のこもったお話を聞くことができました。

取材・記事：遠藤 在氏（Sign・榛原支部）

取材：河内 崇文氏（株）スマートブレイン・榛原支部

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1017名

※写真はe.doyu「ユーザ名簿」からご確認ください。

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
あきやま 秋山 ともひで 朋秀	(株)アイソー	沼津	秋山 和孝
自動車制御等電気機器製造業 (自動車制御盤・高低圧配電盤・分電盤・乗用モノレール装置の設計製作、電気装置の改修・模様替え)			
えんどう 遠藤 ゆうき 優輝	(有)トーシン	沼津	秋山 和孝
金属加工業 (工作機械部品、スピンドルスルーを生かした各種加工)			
かつまた 勝又 まさや 昌也	(株)勝大	沼津	藤原 博美
小売業 (コンビニエンスストア)			
くぼた 窪田 だいすけ 大典	(有)東静クボタ工業	沼津	秋山 和孝
製造業 (自動車部品の検査・治具、装置設計・製造)			
すずき 鈴木 けんすけ 憲介	(株)東海医療器械	沼津	長岡 善章
医療機器・医療用品・福祉機器・介護用品等の卸販売			
すずき 鈴木 かずもと 一玄	(有)沼津住機	沼津	藤原 博美
建設業 (足場工事)			
たかしま 高島 くにひで 邦栄	不二高(株)	沼津	石澤 浩一
建築資材の卸・販売 (各種建築資材、日本国特許「百年炭蔵」プロジェクト、建具・大工・建築・内装仕上工事 他)			
びとう 尾藤 まさひろ 正弘	(株)BTコンサルティング	沼津	藤原 博美
個別指導学習 (主に中学生を対象とした、全教科対応の個別指導塾)			
わたなべ 渡邊 隆太郎	シェ・ワタナベ	沼津	鈴木 崇史
飲食店 (パルフェ、食事・アレルギー用ケーキ、低カロリーケーキ)			
わたなべ 渡邊 ひとし 仁	(株)ザ・ゴールデン	富士	出口 明利
リサイクルショップ (貴金属、タイヤ、ブランド時計、ブランド品買取)			
のむら 柵村 なおゆき 直由	柵村電子製作所	富士宮	中村 仁
機械器具製造業 (精密切削加工 (マシンングセンターで非鉄金属を切削))			
いしかわ 石川 しげり 茂吏	ときわ総合法律事務所	志太	知久 正博
法的サービス			
てんのうざわたかゆき 天王沢雄之	池村建設(株)	志太	大滝 明尚
建設業 (土木一式、舗装・水道・石)			
みなかわ 皆川 のりふみ 徳史	(株)常宏	志太	大畑 邦明
土木資材総合商社 (コンクリート二次製品、グレーチング等鋼材、生コンクリート、砂・砕石・砂利、下水道資材)			

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
わたなべ 渡邊 としはる 俊晴	(株)大石商店	志太	河原崎茂則
産業廃棄物処分量、建設業 (がれき類 (コンクリート・アスファルト)の中間処理、再生砕石・土砂・砕石類の販売・土工)			
おおいし 大石 あきひろ 晃広	(株)ブンテン	榛原	鈴木 茂
小売業 (OA機器、文具、事務機、印刷、印章)			
すずき 鈴木 たつや 達也	(株)ゲネシス	榛原	大橋 徳久
廃棄物処理業、食品リサイクル (廃棄物処分量、バイオガス発電、飼料製造・販売、食品サイクル関連機械の製造・販売、コンサルティング)			
たなか 田中 ありゆき 有行	(株)矢部製作所	榛原	増田 貴士
金属製品製造業 (シャッターカーケース、製茶機械部品、空調部品等)			
なかむら 中村 かつなお 功尚	NK設備	榛原	福田 克己
配管工、給排水衛生設備工事 (住宅設備工事、浄化槽工事、宅内下水工事)			
ますだ 増田 たかし 貴士	増田工業(株)	榛原	鈴木 雅夫
製造業 (専用機設計・製造、金型設計・製造、治工具設計・製造)			
むらまつけん 村松健太郎	(株)ゲネシス	榛原	大橋 徳久
廃棄物処理業、食品リサイクル (廃棄物処分量、バイオガス発電、飼料製造・販売、食品サイクル関連機械の製造・販売、コンサルティング)			
せがわ 瀬川 ひとし 仁之	(株)ハラ不動産	浜松	阪西 敏治
不動産業 (賃貸仲介業/賃貸管理業/不動産売買/建物内外装工事/損害保険代理業)			

名義変更による新名義人 (敬称略)

氏名	社名	所属支部	旧名義人
のむら 柵村 まさや 勝也	(株)野村商店	伊東	野村 玲三
すずき 鈴木 しょうた 将大	(有)東亜電気工業	伊東	鈴木 涼太
くろかわ 黒川 じゅん 淳	(株)フジドリームエアラインズ	静岡	岡 斉藤 茂宏
はらぐち 原口 つば 翼	(株)リンク・アンビション	静岡	岡 渡辺 圭介

友達の輪 第25回

大竹政彦さん(有)富士清掃センター・富士支部)からご指名を頂いた、御殿場支部の大川隆久です。大竹さんは「第8期経営指針を創る会」で共に学び、初めての経営指針を創るため切磋琢磨した仲間です。県東部の中でも最も東に位置する御殿場支部に所属していた私は、なかなか他支部の方との交流を持つ機会がありませんでした。そんな私にとって、経営指針を創る会で体験した「本音で語る、本気でぶつかる」大竹さんの姿勢は、私のような未熟な経営者の考えを大きく変える出会いでした。

創る会で学んで数年、未熟ながらも毎年経営指針書を作成し、少しずつ進化しています。お取引先様にも可能な部分は公開し、父からバトンタッチした2代目経営者の信頼を得ることが出来ました。また会社の技術を広げようと、今年から新たな分野にもチャレンジしています。大竹さんにこの様なことを話すといつも「おっ、いいね〜。もっと一緒に頑張ろうよ」と言って頂ける事が、自分の励みにもなっています。

さて、次にご指名させていただくのは、同じく8期生(はっぴーず)の仲間だった坂上洋一さん(さかがみ財産クリニック(株)・静岡支部)です。音楽好きの坂上さんは、音響好きの私とはハッピーズの同期会で盛り上がり、会社経営についても深い見識をお持ちの方です。それでは坂上さん、よろしくお願ひします。

大川 隆久 (フエタ工業(有)・御殿場支部)



同友会イントロセミナー IN 榛原

3月11日(金) 参加25名

河合浩史氏(板橋工機(株)・県副代表理事)による同友会についての説明の後、「同友会と私」をテーマに伊藤義康氏(イトウシャディ(株)・榛原支部)が報告。伊藤氏の会社を継ぎ今に至るまでの経営、その中で社員との関わり方を考え続け同友会と出会いました。今は社員を第一に考え、スタッフが夢を持てる職場にしたいという強い想いを持ち経営している、との事。参加したオプザーバーの皆さんにも、同友会を知り、感じてもらえるイントロセミナーとなりました。



伊藤 義康氏

同友会 三つの目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。